

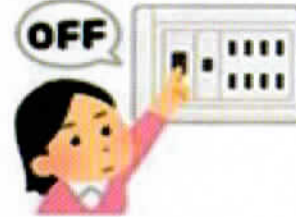
地震や風水害時の通電火災に注意

災害が発生し、停電した時は①, ②

①電気機器のスイッチを切り、
電源プラグをコンセントから抜く

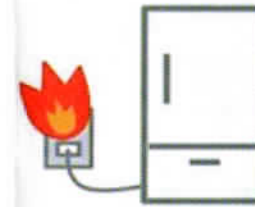


②避難のため自宅等を離れる
際はブレーカーを落とす



復旧し、再通電した時は③

③発火の危険がないことを確認してから使用する



故障した家電に通電することによる発火

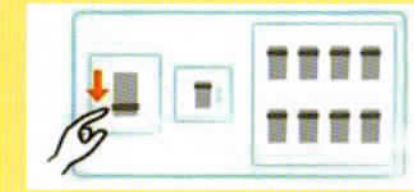
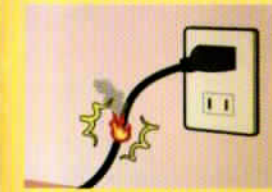


電源コードの被覆が破れて
短絡(ショート)による発火



地震等により落下した
可燃物による発火

★建物や電気機器に外見上の損傷がなくても、壁内配線の損傷や電気機器内部の故障により、再通電時に火災が発生する場合があります。煙の発生等の異常に気づいたら、直ちにブレーカーを落とし、119番通報する。



感震ブレーカーのタイプ別の特徴

※下記は一般的な特徴・注意点ですので、機器により異なる場合があります。

	分電盤タイプ (内蔵型)	分電盤タイプ (後付型)	コンセントタイプ	簡易タイプ
機器概要	分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。	バネの作動や重りの落下によりブレーカーを落として電気を遮断。
価格	約5万円～8万円(標準的なもの)	約2万円	約5,000円～2万円	3,000円～4,000円程度
特徴	●感震性能が高く、専門工事業者による設置のため、作動の信頼性が高い。 ●感震後、通電の遮断までに一定の待機時間が設定されており、その間は照明が確保される。 ●電気工事が必要。		●作動の信頼性のばらつきが小さい。 ●作動時においても未設置のコンセントへの通電は確保される。 ●電気工事が不要なタイプ(コンセント差込型)と必要なタイプ(コンセント埋込型)の両者がある。	●ユーザー自ら取付けるため、設置方法に伴う作動の信頼性にばらつきが生じるおそれがある。 ●電気工事不要。 ●既設分電盤の形状によっては、取付け困難な場合がある。
注意点	●感震ブレーカー等の設置の有無に関わらず、地震発生後に自宅から避難する際にはブレーカーを切ることが重要。 ●復電する場合には、事前にガス漏れ等がないことの確認や、電気製品の安全の確認が必要。 ●夜間等到大規模な地震が発生し、感震ブレーカーが作動した場合に備え、避難時の照明を確保しておく。一般的な防災対策としても、停電時に備えて足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しておく。 ●在宅用医療機器を設置している場合、停電に対処できるよう、バッテリー等を備えることが必要。			